

2019 年度

日本福祉大学大学院

認定社会福祉士研修制度

開講科目 科目概要



日本福祉大学大学院

目次

■前期開講科目（前期履修登録期間のみ登録可）

ソーシャルワーク論 1

■後期開講科目（前期・後期履修登録期間のみ登録可）

地域福祉論 2

科目名	ソーシャルワーク論	2単位
担当者	田中 千枝子	
テーマ	ソーシャルワーク実践を理論や方法論として理解する	
科目のねらい	<p><キーワード> ①ソーシャルワーク ②実践理論 ③社会福祉方法論 ④マイクロ・メゾ・マクロ実践 ⑤ 専門性</p> <p><内容の要約> ソーシャルワーク実践の基盤となる考え方や方法を示すソーシャルワーク実践理論やアプローチの基本的知識を得ることによって、とくにマイクロからメゾレベルの領域の専門性の確認を行う。また実践事例を分析し、グループワーク体験をすることで、ソーシャルワークの価値にもとづく知識・技術を検証し、さらにそれらを専門家のコンピテンスとして身につけるための学習・学修を行う。 方法としては、実際の事例に対して様々な教育手法による実践理論・アプローチを適用し、参加型授業によって、一定の視点からの事例の事実を観察し、理解し、分析・解釈し、評価するといった段階を経て、ソーシャルワークの一連の流れを体験する。</p> <p><学習目標> 人の人生/生活に着目し、社会的枠組みにおいて福祉的課題を設定し、その科学的視点による方法論としてのソーシャルワークの実践方法を理解することができる。 ソーシャルワーク理論や展開過程を問題解決に応用する能力として身につけ、多職種に対するコミュニケーションやプレゼンテーションに役立てることができる。</p>	
授業の進め方	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 SWの実践理論概論、事例検討 第 3 回 援助観価値観の理論的変遷、討論 第 4 回 統合理論の流れ概観、事例検討 第 5 回 バイオ・サイコ・ソーシャルモデル、ロールプレイ 第 6 回 役割理論、ロールプレイ、事例検討 第 7 回 ピンカスマナハンの4つのシステム論、エコマップ作成 第 8 回 GWに関する基礎理論概観、ロールプレイ 第 9 回 グループ力動論、事例検討、ロールプレイ 第 10回 システム理論、参与観察法によるフィールドノーツの作成 第 11回 チームアプローチ、場の理論、カンファレンス、KJ法 第 12回 エンパワメントエバリュエーション法、ワークショップ、報告会 第 13回 ソーシャルワークリサーチ、社会調査、介入計画作成 第 14回 実践理論と実際の総括、ディスカッション 第 15回 まとめ(レポート作成、報告会)	
事前学習の内容 学習上の注意	○指定したテキストや資料や課題を事前に読んで考えておくこと。 ○ディスカッションやロールプレイなど演習形式を多様するので、積極的に参加すること。 ○毎回授業の最初に前回授業内容に係る振り返りを実施するので、復習しておくこと。 ○毎回の授業終了時に、次回の資料や論文を配布するので読んでおくこと。 ○社会福祉学での基礎的な理論に関する知識を前提として講義する。	
本科目の 関連科目	医療・福祉マネジメント研究科「専門演習Ⅰ・Ⅱ」の考え方や論文作成の枠組み作成に寄与することができる	
テキスト	なし その都度提示	
参考文献	「保健医療ソーシャルワーク論」勁草書房 田中千枝子 「ソーシャルワークとは何か」川島書店 Zブタリム その他 授業中に提示	
成績評価 方法と基準	授業2限に1回ごとの小レポートの提出(20%)、ディスカッション・ロールプレイへの参加度(20%)、中レポート3回提出(60%)の方法で評価をおこない、全体で60%以上を合格とする	

科目名	地域福祉論	2単位
担当者	野口 定久	
テーマ	地域コミュニティの充実と未来の地域福祉学	
科目のねらい	<p><キーワード> 包容社会、社会構想学、福祉コミュニティ、コミュニティソーシャルワーク、地域包括ケア、多職種連携</p> <p><内容の要約> 現代の福祉問題(新しいリスク)は、そのほとんどが地域コミュニティの「場」で発生している。グローバル化とローカル化が同時に進行する中では、これらの福祉問題を地域コミュニティにおいて総合的に解決する方法が求められている。これからの超高齢少子人口減少社会を支える地域福祉の政策と実践、地域再生計画、居住福祉のまちづくり事例、コミュニティケア・小規模多機能施設、家族やジェンダー等の対象テーマをめぐって、3つの理論(ソーシャル・キャピタル、ローカル・ガバナンス、コミュニティソーシャルワーク)を中心に講義を組み立てる。また、各地の地域福祉及び居住福祉の実践事例に学びながら、地域独自の政策や実践を計画化し、地域包括ケアをマネジメントする理論と手法を追及する。</p> <p><学習目標> ①地域福祉の理論・政策・実践・技術を体系的に学ぶことができる。 ②各地の住民主導型の地域福祉計画の策定および推進方法を具体的に学ぶことができる。 ③地域の資源を活用した社会的企業およびコミュニティ・ビジネスの実践例等を参考に、地域再生の方法論について学ぶことができる。 ④包摂型福祉社会の推進をリードす地域福祉専門職のコミュニティソーシャルワーク、ソーシャルアクション、地域資源開発、個別問題解決等の活動方法論を学ぶことができる。 ⑤居住福祉社会の実現に向けた具体的な事例を学ぶことができる。 ⑥コミュニティソーシャルワーク事例研究法から多職種連携のためのアセスメントの方法を学ぶことができる。</p>	
授業の進め方	1講 人口減少社会の地域福祉 2講 地域福祉の理論と構成 3講 地域福祉運営の理論と実際 4講 地域ケアの政策と対応システム 5講 社会福祉サービスのデリバリー・システム 6講 地域福祉の主体形成 7講 住民福祉活動の進め方 8講 ボランティア活動等の実態把握 9講 地域福祉の人材養成 10講 地方分権と地域福祉 11講 地域福祉の政策と計画 12講 社会福祉調査の理論と方法 13講 地域福祉計画の策定戦略 14講 地域福祉計画と住民参加 15講 地域福祉計画の策定過程：計画の策定プロセス／策定モデル1ー都市部／策定モデル2ー山間部	
事前学習の内容 学習上の注意	この講義は、パワーポイントを用いたビジュアルな情報伝達と実地研究による現場の思考が教材です。現場の事象⇒経験知⇒形式知⇒実践知の研究方法論を用います。分断社会から包容社会への転換を主テーマに、世界の経済情勢、地域文化、家族関係、生活習慣等の相違点や共通点など新聞や書籍、IT等から情報を収集するように努めてください。	
本科目の 関連科目	私の研究テーマと方法、福祉教育方法論	
テキスト	野口定久『ゼミナール 地域福祉学-図解でわかる理論と実践』中央法規、2018年	
参考文献	野口定久『人口減少時代の地域福祉』ミネルヴァ書房、2016年 岩田正美監修・野口定久・平野隆之編著『リーディングス日本の社会福祉 6 地域福祉』全400頁)日本図書センター、2011年	
成績評価 方法と基準	中間レポート3回(10点×3回 A4×1枚)、最終レポート(50点×1回 A4×3枚)、講義・演習等での発言など出席の姿勢(20点)により評価し、総合評価 60点以上を合格とする。	